

# 墨翔

発行 兵庫県水墨画協会  
理事長 盛 静山  
事務局 神戸市北区筑紫が丘  
515-18  
井上 宣子 方  
TEL&FAX  
078(583)2793

## 水墨画向上を目指して

理事長 盛 静山

東洋美術の主体として水墨画は何百年も歩み続けて来ました。

県、市、各芸術団体の後援のもとに原田の森ギャラリー等で十一回の公募展を催しました。回を重ねる毎に会員、出品も多くなり会

も充実され一昨年から東京の墨美会、大阪のNPO法人アジア文化芸術連盟との交流作品も展示し水墨芸術の輪を広げています。

今年には原田の森ギャラリーが、耐震工事のため、BBプラザ美術展にて開催しました。会場が狭いので作品の大きさも20号以下とし、軸作品も半折までと限定しました。

第3部の子供作品の外に一〇〇点陳列されましたが作品の大小に拘らず充実したもので、各自の個性を生かしたもので、技術的に墨の色を研究し、内面的に変化したものや斬新な作品もあり、伝統

のある水墨画を重んじながらも新しい芸術の芽が生まれて来ている様でした。

自由に誰でも出品出来る展覧会

楽しく描いた作品、水墨を主とした大小に関係なく初めての作品や俳画も出品できます。

平成二十九年の公募展は、七月二十五日から開催されます。皆様も切磋琢磨の上自分の作品を出品して下さい。

## 思うこと

副理事長 いのうえ のぶこ

今年の公募展は、原田の森ギャラリー耐震工事の為、各美術団体と同じように、会場さがしに大変苦労しているところ、原田の森ギャラリー前館長の金月氏のお骨折りで、BBプラザ美術館で開催することになりました。美術館としては雰囲気のある会場ですが、公募展としては会場が狭く、苦労いたしました。まず、募集する作品の

大きさを最大F20号にすることからはじめ、いろいろ思案し、とまどう事ばかりで応募の方々にも、ご迷惑をおかけしました。でも展示して見て「ほっとした」「とつても観やすかった」「墨っていいもんだな」「作品も、会場も小さかったので観やすかった」と、思いがけずうれしいお声を聞くことができ、新たな感想を聞いた思いです。世の中、どこの団体も、高齢化で若い力が求められています。若い力が少しずつ育ってきているのがうれしいことの一つです。基本を大切に、自分の作品を創り出して欲しいと思う今日この頃です。来年も、もっと新しい力、新しい作風など期待しています。



## 副理事長になって

副理事長 宮田 雲鶴

今年より副理事長として皆様のお世話をさせて頂く事になりました。若輩者ではございますがどうかよろしくお願ひ申し上げます。

水墨画に無関心だった私が五十の時、偶然に劉素真先生の作品に接し、強烈な感銘を受け門下生となりました。当協会に入会後も会員方々との交流があります。人々との出会いは人生にとって一大事だと思っています。

私には水墨画界の事はよくわか

りませんが公募展作品を拝見しますと力作ばかりでよく勉強されていると感心しております。

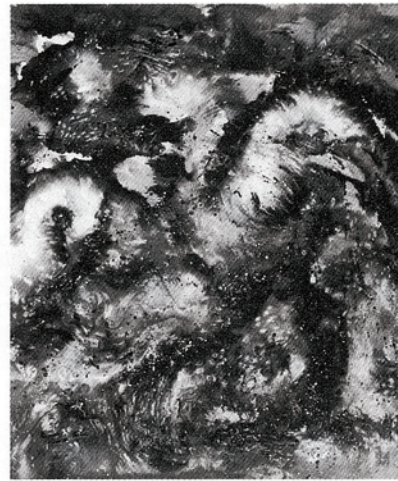
色々と流派はありますが、私は基礎勉強後は自分の画で楽しんで筆を持つことが大切だと思っております。

公募展というのは、いろんな作品を鑑賞し、自己学習のできるよい機会ですので、それを肥やしとして次の作品につなげていただければと思います。皆様の来年の作品を楽しみにしつつ、今迄以上の御協力をお願い申し上げます。



兵庫県水墨画協会大賞

下野 柏青



兵庫県知事賞

杉野 柏蓉



神戸市長賞

小谷 鳴宝



審査員の講評

女子美術大学

教授 橋本 弘安

兵庫県水墨画協会展の審査にあ  
たらせていただき毎年何か新しい  
新鮮なものを感じています。墨の  
中で抽象的な表情を見せる作品、

写実的な作品、動物や花、空間的  
な美しさを持ったもの、墨の色が  
美しいなど思うものなどバラエティ  
豊かに個性が感じられました。そ  
れらの中で大賞、知事賞、神戸市  
長賞、そしてそれに続く賞を選ば  
せていただきました。積み重ねら  
れた水墨画探求の姿勢を感じます。  
また、水墨画協会には小品部門  
もあり多少、水墨画を始められて

日の浅い方も多いのかと思いま  
す。思いのこもった作品がありま  
した。受賞された「里」という作  
品は墨と紙の白さが美しい画面の  
まとまりとなり完成度の高い作品  
とおもいました。「実り」という栗  
を描いた作品は、大きな筆づかい  
で濃淡が的確にとらえられ勢いが  
感じられる作品でした。他にも「野  
バラ」など草花を丁寧にみた作品、  
大きさを感じさせて行こうという  
風景などがあり、今後、大きな作  
品に是非、挑戦していただきたい  
と期待しております。

西宮市大谷美術館

館長 越智 裕二郎

本年は原田の森ギャラリーが工  
事休館のため、会場がBBプラザ  
美術館となったことにより出品作  
品もより小さくなってしまったが、  
小作品を中心に充実した展覧会と  
なったといえる。その一つは主題  
の多様さである。風景はもとより  
建物、猿や鹿の動物、花卉もさま  
ざま、雨傘や女性のスードまであ  
らわれた。即ち南画的な風格をもつ  
たものもあらわれたということだ  
ある。

鶴亭展を観て感じた事

三木 浩

鶴亭の生涯を振り返ってみると長崎で生を受け幼くして郷里  
で宗教と花鳥画に出会ったと言われている。成長するにつれ色  
彩感覚も自然に鍛えられたと思われる。文化史を遡って鶴亭  
の生きた時代（江戸時代千六百年後期〜千七百年中期）の長崎  
は我が国の文明発展の窓口であって世界文明の流入口であった。  
絵画の世界でも寺社中心の水墨から長崎から流入した世界文  
化の色彩に変化する時代で鶴亭が長崎から浪花・京・江戸と散  
策し学んだ武家・資産階級に広まっていた色彩画の流れに乗り  
水墨画と先端を行く色彩画を積極的に取り入れその繁栄を絵画  
の上で実現したのが鶴亭ではないかと感じた。个性的で華やか  
な花鳥画の色彩は世間の目を覚まし画期的な写実性豊かな絵画  
が生まれたのではないだろうか。

また淡彩をふくめて墨を中心と  
した作品も多かったということが  
できる。賞作品を中心に作品の背  
後に、制作に向かう作者のさまざ  
まな研究を読み取ることが出来、  
その研鑽の結果が作品や賞に結び  
ついているというのが私の感想で  
ある。昨今、日本でも中国や台湾  
の美術館の展覧会も増えてきた。  
来年どんな作品と出会えるのかが  
楽しみである。



全国水墨画美術協会

副会長 陳 允陸

今回の出品作品について、全体  
的にレベルが上がってきて、完成  
度は高いという印象をもちました。  
特に入賞作品では、個性があつて、  
それぞれの特徴を出しています。  
大賞作品「躍」文字通り、躍動感  
があり、大胆なタッチで構成され、  
迫力がある作品です。現代的な作  
風を感じられます。兵庫県知事賞  
の作品「猿たちの秘湯」では、お

もしろさがあり筆の使い方は上手です。生活のなかの一場面をよく観察されてうまくまとめて描かれています。兵庫県教育長賞作品「秋光」では大胆な構成で独特な味わいがある作品です。兵庫県議会議長賞作品「幽玄」では墨色はよく、透明感があり、完成度は高い作品です。

白と黒を対比させ、上品で新鮮感がある作品と評価されました。水墨画を描く場合、絵を描いて完成ではなく、落款し印を押した時点で作品の完成となります。今回の作品の中で何点かそれはバランスをとれなくて少し残念に思います。

今後、これに注意しながら作品を制作していただきたいと思います。



受賞の喜びの言葉

芦屋市 下野 柏声

この度は、筆がのっているのか、書きたくて書きたくて、書いたものです。

いつも静の中に躍動感のある絵が書きたいと願って居りましたので、又紙の変化、墨のからみあいのおもしろさ、墨の色の十色にもなる水との、生かし方を研究すればする程奥が深く出来た時の喜びを感じる毎日です。

この絵は見た方が一人一人の感覚で、色々発想していただき、見て頂ければ幸いと思います。



神戸市 高橋 佐智子

一年がかりの作品で失敗ばかりでしたが、ようやく出品することとなりました。

尼崎市 桑原 美智子

皆様の作品を観ていつも勉強させていただいています。

一月に椿見学に行き、やさしい椿と、落ちて美しく咲いている様子を表現してみました。

吹田市 竹内 真弓

今回、鹿を描いてみたいと思い、カメラ片手に奈良へ。しかし帰って描き出すと、角は？向きが・・・などなど・二回三回奈良へ足を

運びました。描く目的で出掛けるのも楽しく又作品を仕上げて出品するのも嬉しく受賞し一段と嬉しく、ここはどうしようと考えますが、多いですが、楽しさは三倍です。これからもあれこれ見に行き楽しみながら作品を描いていきたいと思えます。

大阪市 松宮 廣子

去年は皆様のすばらしい作品に圧倒されました。今年も長年あためて是非書いてみたいと思っていたアオバズクに挑戦し、出来はともかく満足しました。

私の作品について

林 静佳

今年の兵庫県水墨画協会展では裸婦を出品致しました。モデルがいらっしやるんですかという質問を何度も受けました。すべては写生有りでです。

まずは対象物との対話から始まります。同じモデルさんで、二十分三十分のポーズのクロッキー。とても魅力的な方でした。是非にも形にしたいという思いが募りました。嘘、偽りのない線と形の探求を繰り返し、日に日に思索を深めて行きます。物を媒介とした自分との対話を楽しむ事が続きます。

苦しまず、飽きず、諦めずに・・・そして、新たな「物」が生み出されるのです。執着を捨て、自分を誤魔化さないこと。人工物は感じ考えたものにより新たに生まれ、観者に観て感じて考えて頂けること、そういう出会いを大切にしたいと思っています。

絵を描き書き続けられてきた事に感謝し、自然を師とし真面目に普遍的な造形美を求め、怠らず精進をして行くこと。新たな日々の感動を求めて皆さんと水墨芸術を楽しみたいと思っています。

兵庫県水墨画協会  
秀作・選抜展 in 尼崎

杉野 柏蓉

兵庫県水墨画協会の公募展での秀作・選抜作品を昨年の in 姫路に続いて、今年は in 尼崎で十月二十五日より三十日まで開催しました。会期中たくさんの方に御来場いただきました。

次回、平成二十九年の巡回展は加古川市で開催する予定です。

展覧会場でアンケートをいただきました

◆◆ アンケートのまとめ ◆◆

- ・ 60代70代の方から多くの回答をいただきました。
- ・ 神戸市の方が中心ですが、兵庫県の北部、西部、そして大阪府の方も、来ていただいています。
- ・ 「好きな画題」に対しては、どの年代の方も、風景が花鳥・山水を上回っていました。
- ・ 何で知りましたかでは、友人からが多かったです。
- ・ 複数回ご来場の方が多かったのですが、初めての方も多数おられました。次回も来ていただくと嬉しいです。
- ・ 家族や友人と来られた方だけでなく、1人で来ていただいた方も多かったです。

◆◆ アンケートでのご意見 ◆◆

- ・ 色々な画法の絵があり、色々な筆法が勉強になりました。
- ・ 墨の濃淡で全てを表現されていて、とても美しいと思いました。細部を描いてしまわず、想像の余白が残されている作品をすばらしいと思いました。
- ・ 水墨画は非常に心が穏やかになります。
- ・ 今までの水墨画とずいぶん印象が変わり、勉強させて頂きました。
- ・ とても楽しい時間でした。墨の色や、見方など、一つ一つ絵が全く違うことに驚きました。
- ・ 水墨画を習っているので、一度公募展に出品したいなと思いつつながら、拝見させていただきました。
- ・ ぜひ習いたいと思います。 ←←←ぜひ始めてください。
- ・ どうやって子供達に水墨画のうつくしさを伝えていくのかわかりません。今、塾の時代で子供達がお絵かきを学ぶ時間と余裕がなく、親も重視していないし、次の世代がこの水墨文化を受け継いでくれる子があまり少ないと感じています。



水墨画体験をお手伝いして  
寺西 恵心

伝統文化体験フェスティバル・水墨画体験のお手伝いをさせて頂きました。事前予約されていた方に加え、当日参加の方々が後を絶たず、一部、二部共に満席の大盛況となりました。台湾、中国、インド、ドイツからのお客様もご参加され、国際色豊かな会となりました。満席のため、やむなくお断

りするという状況もありましたが、ご参加のお客様には楽しい時間を過ごして頂けたように感じられ、とても嬉しかったです。



編集後記

今回は写真が少なかったので、今回はできるだけ多くの写真を入れるよう考えました。

これからも皆様に喜んでいただける内容にしたいと思います。原稿にもご協力お願いします。

編集委員